

「佐比江新地の水帳に記された御影屋松右衛門の屋敷」 岡方文書より (岡方協議会所蔵・神戸市文書館架蔵)

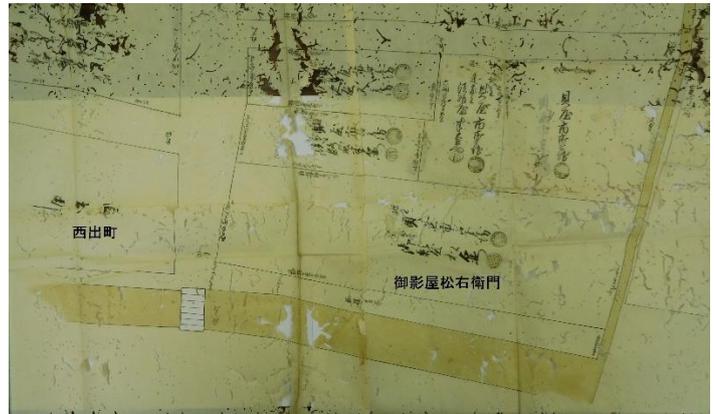
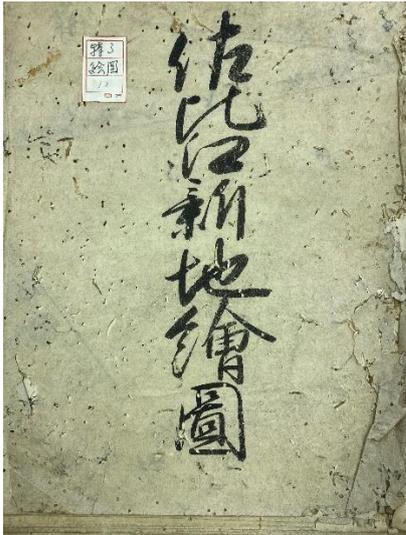
令和2年8月27日、岡方協議会所蔵・神戸市文書館架蔵の佐比江絵図（寛政11年）より、工樂松右衛門が兵庫津の佐比江で所有していたことが明確に記された土地台帳に基づく地図（水帳）が発見されました。これは、二代目工樂松右衛門が兵庫津を離れるまで、この佐比江の屋敷を中心に廻船問屋として、また様々な発明、工夫のための技術工房として仕事を行っていたことを裏付ける重要な資料です。

この地図は、神戸市文書館で調査・整理されて以降長らく広げることもなく、折り畳んだままの状態でした。開披困難な地図を見せていただくことになりました。感謝に堪えません。随分虫食い状態がひどく、それを恐る恐る息を潜めるように丁寧に広げていき、記されている家の所有者の名前を一つ一つ確認していきました。

1、佐比江新地における御影屋松右衛門

寛政11年10月の「佐比江新地絵図」の一角に建家主御影屋松右衛門の名前がハッキリと記されていました。大発見で興奮した瞬間でした。他の家と比較すると結構広い敷地であり、海岸近くの舟入から離れたこの場所で、こんな広い面積の屋敷を持っていたということは、どのような使い方をしていたのでしょうか？

廻船問屋を営んでいても商品を多く置くようなスペースは必要なかった筈です。或いはここでも、何台かの手織機を置いて松右衛門帆布を生産していたの难道うかとも考えられます。現在の佐比江町の地図と重ね合わせると、南西の角地に近い場所になります。七宮神社の真東にあたる場所です。西出町の舟入から徒歩10分かからない場所にあたります。その地図の表紙裏の書き付けには、この佐比江新地で家数が38軒あった、ということが分かります。



「寛政 11 年 10 月の佐比江新地繪図」

岡方文書より

(岡方協議会所蔵・神戸市文書館架蔵)

「佐比江新地の水帳に記された御影屋松右衛門の屋敷」岡方文書より

(岡方協議会所蔵・神戸市文書館架蔵)

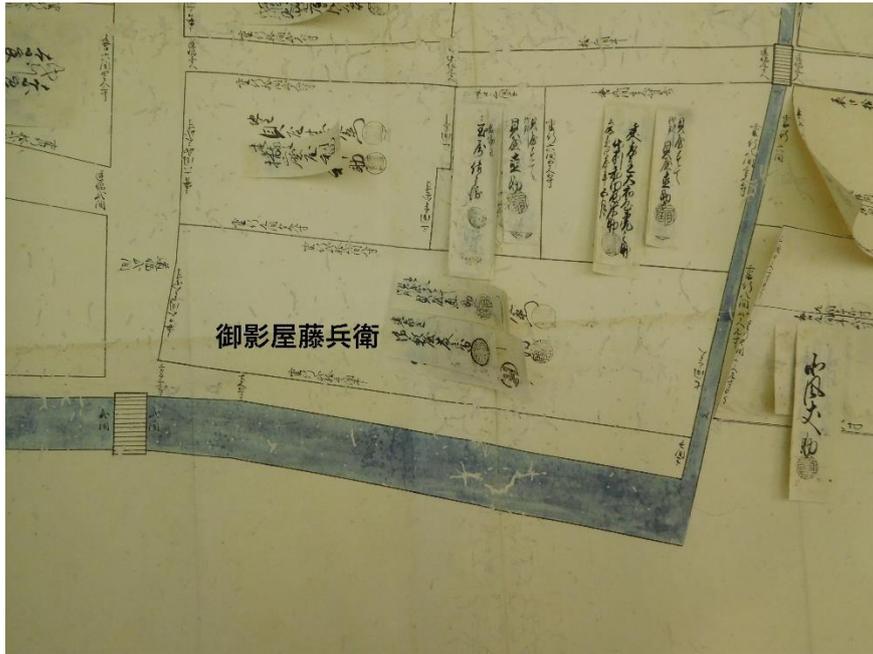
現在の佐比江の地図に重ねると、以下のようになります。



大国正美氏提供

2、御影屋松右衛門の屋敷が、御影屋藤兵衛名に変わる

ところが、この御影屋松右衛門が暮らしていた屋敷は、天保 9 年頃には御影屋藤兵衛名に変わっています。その後一時御影屋きぐを経て、明治 5 年ごろはまた御影屋藤兵衛名となっており、初代松右衛門が兵庫津において正式に廻船問屋としての株を譲り渡したその御影屋藤兵衛に、二代目工楽松右衛門が兵庫津を離れる際、御影屋の屋号と共に松右衛門の屋敷を譲ったのではないかと考えられます。



御影屋藤兵衛名になっている「天保9年佐比江新地絵図」（神戸市立博物館蔵）

3、初代松右衛門の義父鍛冶屋善兵衛の家も発見！

— 明治まで兵庫津で商売、高砂とも交流 —

松右衛門は西出町の隣町、東川崎町の御影屋平兵衛の沖船頭（雇われ船長）となって船乗りとしての能力を急速に身につけ、北国との廻船経験を積んでいくことになります。その御影屋平兵衛持ち船による沖船頭としての松右衛門の名は、島根県浜田の船客帳にしばしば見受けられます。江川町にも御影屋平兵衛なる人物がいますが、こちらは米問屋。自らの持ち船を持っていたいかどうか分かりません。東川崎町の方が海岸沿いであるし、持ち船を所有するには便利です。同名、若しくは類似の御影屋平兵衛が兵庫津の資料に登場しますが、確かな関係は不明です。

工楽松右衛門は、工楽家の過去帳によると、西出町の加治屋（鍛冶屋）善兵衛娘ツネと結婚しましたが、ツネは天明7年(1788)2月13日に亡くなっています。義父の職業ははっきりしていませんが、大国正美氏の調査によると、幕末維新期にも西出町に鍛冶屋善兵衛がおり、兵庫津の岡方文書によれば、元治2年(1865)には西出町年寄で、町政を担う有力町人だったことがわかりました。この年正月、商用のため高砂へ出向くことが惣会所に届けが出されているのです。世代が替わっても高砂とも取引が続いていることが分かります。また鍛冶屋善兵衛は、慶応2年(1866)10月御用金として80両を献上したほか、明治元年(1868)10月の鍛冶職仲間、金物屋仲間に鍛冶屋善兵衛の名前が見え、鍛冶職人であり金物屋商人を兼務していたことが判明します。

なお、文久元年(1861)の「兵庫市中諸名家独案内」に碓かじの鍛冶屋善右衛門、文久2年(1862)「商家繁栄歳中日用記」に川崎町に「鍛冶善」という大碓鍛冶がいます。また和田岬の砲台のために文久3年から慶応2年の間に造られた鉄柱座鉄に「カジ善」の銘があることが平成の大修理で判明しました。鍛冶屋善兵衛と鍛冶屋善右衛門の関係に興味が惹かれます。

下の西出町の地図は、これも「虫損甚」で剥離困難な地図でしたが、大変な苦勞をして慎重に開き、確認しました。年代は不詳ですが、西出町の舟入際に並んだ家々の名前がハッキリと確認でき、その中で鍛冶屋善兵衛の名前が、大通を挟んで両側に2箇所（2軒分）の家が、他と比較して広い面積で確認できました。その大通の端には、北風荘右衛門の名前も確認できます。北風荘右衛門は、鍛冶屋町に大きな面積の地所を数軒持っていますが、この舟入近くにある場所は、どういう目的の建物でしょうか？確かな根拠はありませんが、この西出町の家が、司馬遼太郎描く船頭達が自由に入れた北風の宿・風呂の場所であれば、と想像は膨らみます。佐比江の遊郭にも至近距離ですから。

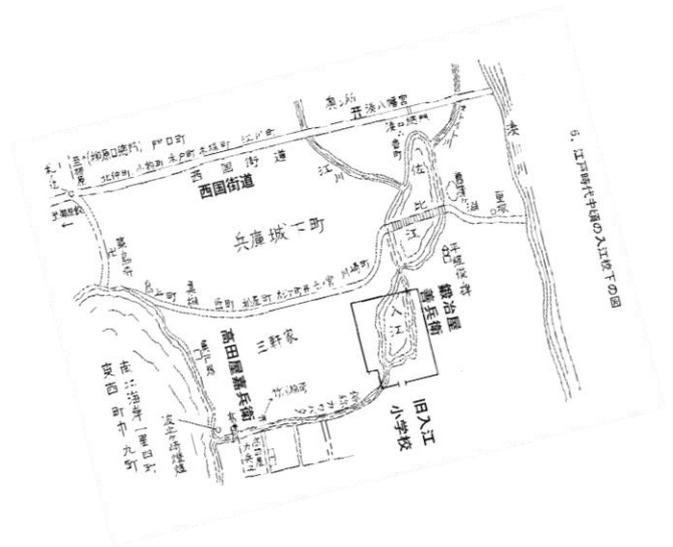
今回の調査で、寛政年間から明治までの江戸時代後期の兵庫津の町家の状況、特に工楽松右衛門が佐比江新地に地所を持って居住していたこと、その隣の西出町に舅がいて、同じ町の直ぐ近くに北風家の宿と風呂があった（風呂は宮前町の方かも知れませんが）と推定されるなど、彼が生きた兵庫津をよりリアリティーを持って想像できるようになりました。この大発見につながった調査に当たり、大国正美氏の大いなる導きがあって実現したことに心よりお礼を申し上げます。また神戸市文書館の皆様には、厚い感謝を申し上げます。開披困難な古地図調査に対してご配慮いただいたこと本当に有り難うございました。神戸市立博物館にも大変なご協力をいただきました。皆様には、重ねて感謝の気持ちをお伝えいたします。



「鍛冶屋善兵衛の家 西出町水帳 断簡」 岡方文書より
(岡方協議会所蔵・神戸市文書館架蔵)



「鍛冶屋善兵衛の家と北風荘右衛門の地所（右上
 角に北風の名前がある）。西出町水帳 断簡」
 岡方文書より（岡方協議会所蔵・神戸市文書館架蔵）



「入江小学校 60 年史」より
 大国正美氏提供